

2016年1月5日
日本船主協会総務部

「新年賀詞交換会」の開催

日本船主協会は、2016年1月5日（火）、海運ビルにおいて新年賀詞交換会を開催した。

工藤会長は挨拶の中で、昨年是一部を除き各船種の市況低迷で世界の海運業は苦戦を強いられたものの、日本の海運会社はいわゆるポートフォリオ経営により黒字を確保し、国際競争力を維持していると述べた。一方、諸外国と比べ依然税制面で劣後しているため、イコールフットィングに近づくよう訴えるとともに、2016年度末に船舶の特別償却制度および圧縮記帳制度、2017年度末にトン数標準税制が夫々期限を迎えるため、関係者のより一層の支援を要請した。また、平成28（2016）年度与党税制改正大綱で「国際船舶に係る登録免許税の課税の特例」の改善・延長が認められたことや、航行安全対策として自衛隊や海上保安庁による海賊対処行動に対し、関係者に改めて謝意を表明した。更に、海運業界として引き続き、環境問題および海運に対する認知度向上等について取り組んでいくと述べた。

来賓として挨拶した石井啓一国土交通大臣は、海運税制に触れ、延長や充実が勝ち取れるよう皆様と一緒に取り組みたいと抱負を語られた。また、衛藤征士郎海事振興連盟会長からも励ましの言葉を頂いた。

当日は、石井大臣、山本・土井両副大臣、宮内政務官、衛藤海事振興連盟会長他多数の国会議員、河野防衛省統合幕僚長、武居防衛省海上幕僚長、岩田防衛省陸上幕僚長、佐藤海上保安庁長官をはじめとする来賓をお迎えし総勢約600名が参加、盛会裡に終了した。



▲工藤会長



▲石井国土交通大臣



▲衛藤海事振興連盟会長